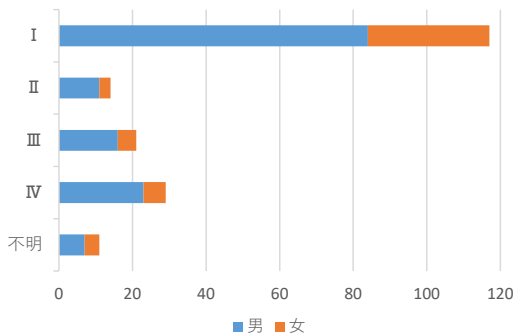
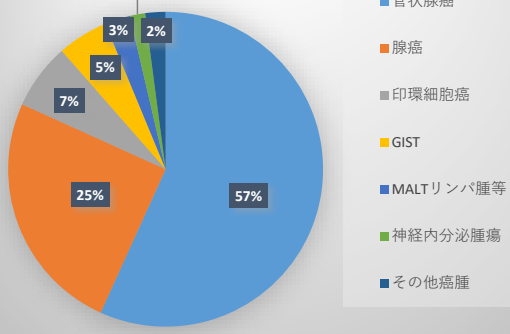


ステージ別男女別



組織型

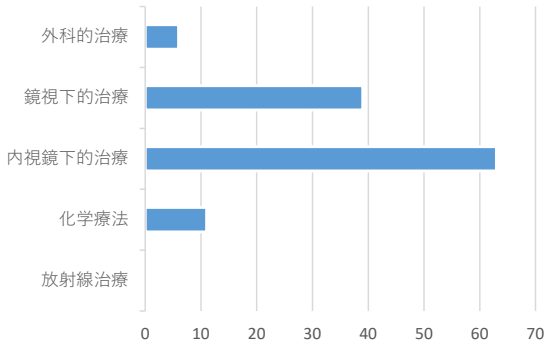


治療前ステージ別登録数

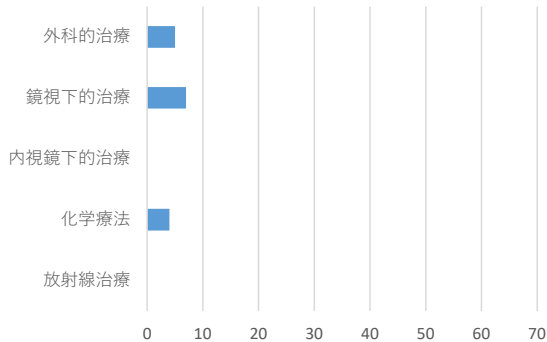
Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	不明	合計
117	14	21	29	11	192

ステージ別治療方法

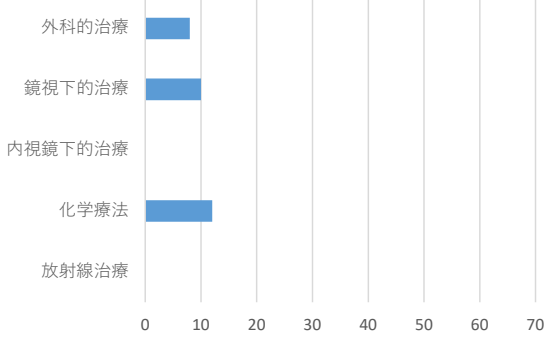
Ⅰ期



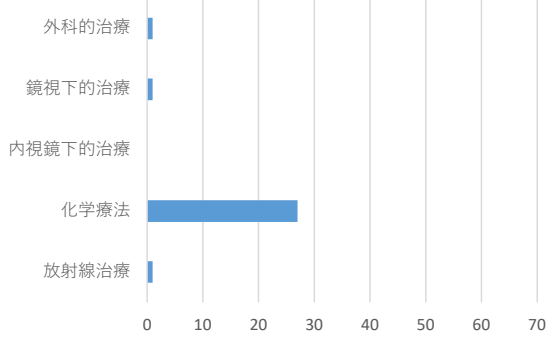
Ⅱ期



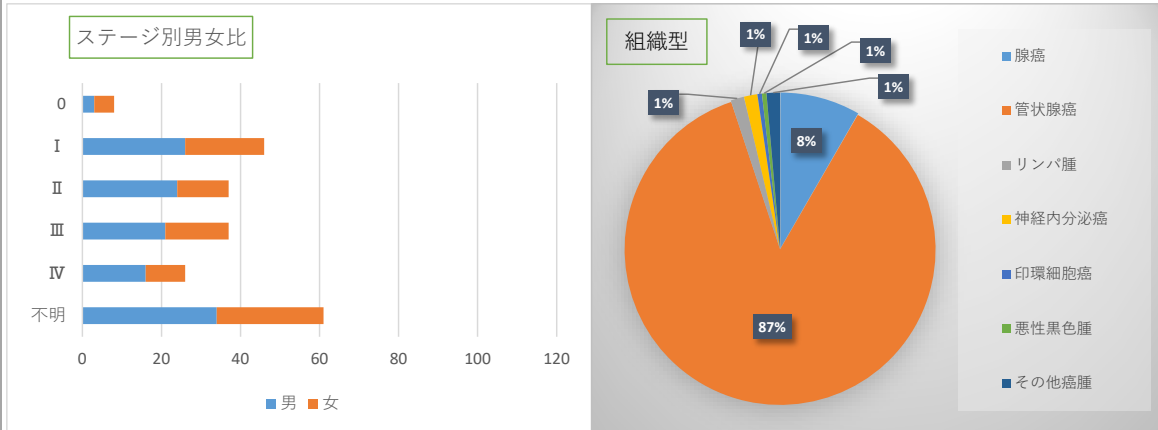
Ⅲ期



Ⅳ期



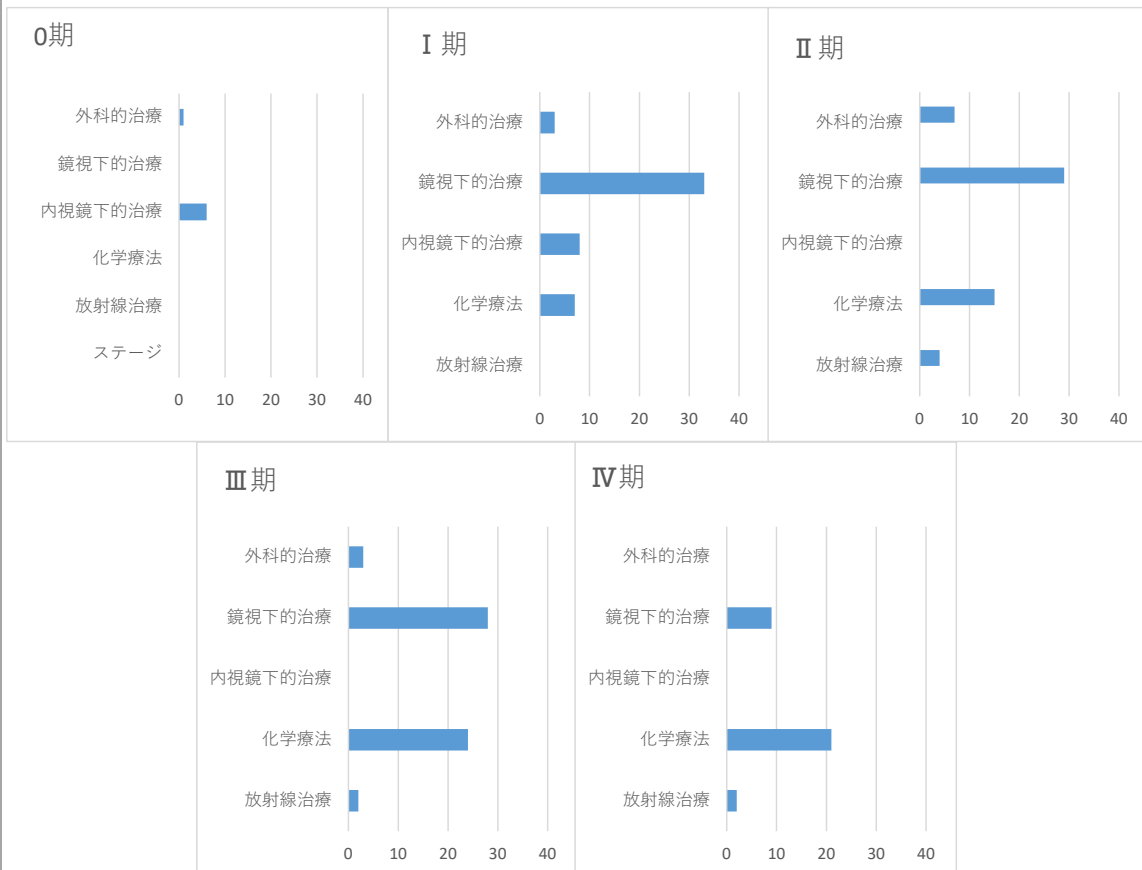
胃がんは、男性141件、女性51件で総数は192件、男性が女性の2.8倍であった。
 ステージ別では、Ⅰ期が最も多く、全体の約6割を占める。組織型は管状腺癌が多く、腺癌とあわせると8割強であった。ステージ別の治療方法では、Ⅰ期では「内視鏡治療」「鏡視下治療」が多く、Ⅱ～Ⅲ期は「手術」「化学療法」治療が多く、Ⅳ期は「化学療法」治療が概ね多い結果であった。



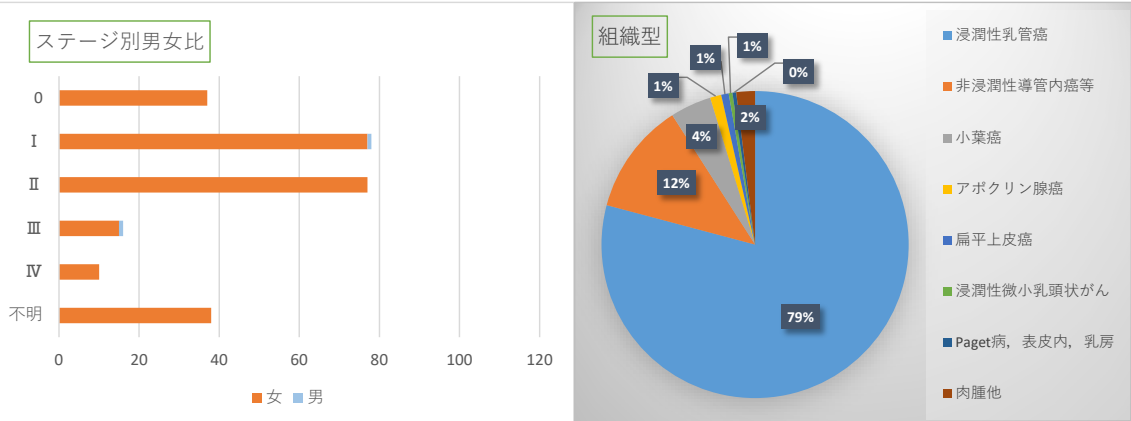
治療前ステージ別登録数

0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
8	46	37	37	26	62	216

ステージ別治療方法



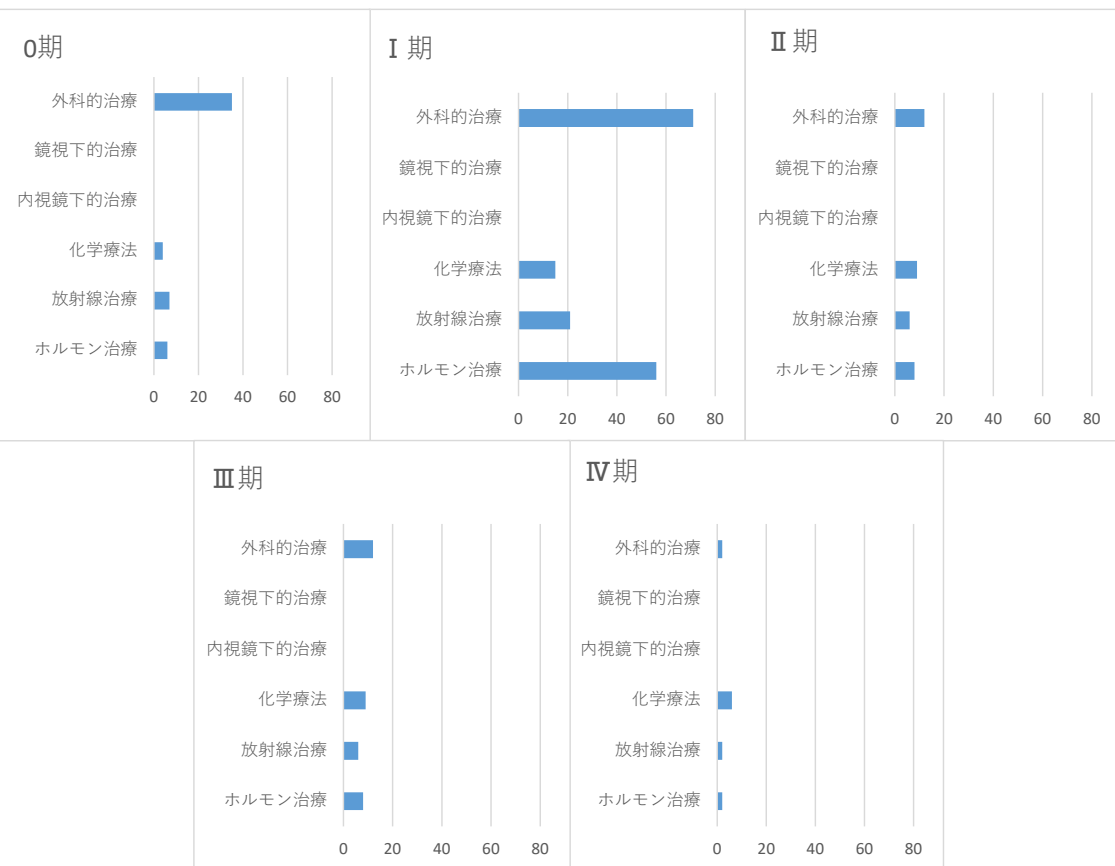
大腸がんは、男性は124件女性は92件で総数は216件、男性が女性の約1.4倍であった。
 組織型では、管状腺癌が、全体の8割強を占め、次いで腺癌が多い。神経内分泌腫瘍も少数ではあるが症例があった。ステージ別はI期が多く、0期以外は、ほぼ大きく変わらない数字であった。ステージ別治療方法は、0期では「内視鏡治療」、I期・II期では「鏡視下治療」が多く、III期は「鏡視下治療」「化学療法」がほぼ同数であった。IV期では、「化学療法」が大半を占めていた。



治療前ステージ別登録数

0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
37	77	77	16	10	38	256

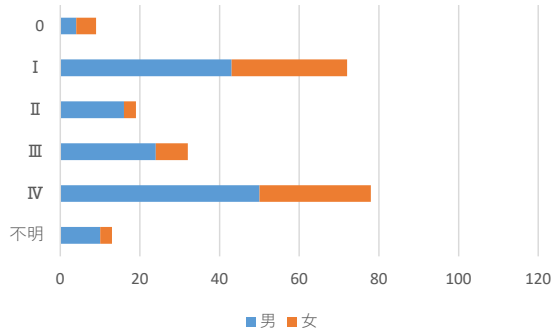
ステージ別治療方法



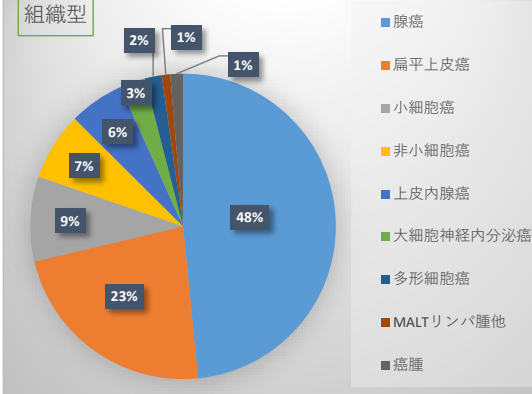
乳がんは、総数256件、概ね女性の登録であった。

組織型では、浸潤性乳管癌が、全体の8割弱を占め、次いで非浸潤性導管内癌、小葉癌の症例があった。治療前ステージ別はI期、II期が多く、次いで、不明（再発症例・他施設からの継続治療）が多かった。ステージ別治療方法は、0期で「外科的治療」I～III期で「外科的治療」が主であった。III期は「外科的治療」「化学療法」がほぼ同数であった。IV期は、「化学療法」が多く占めていた。乳がんにおいてはすべての治療方法が実施されていることが示されている。

ステージ別男女比



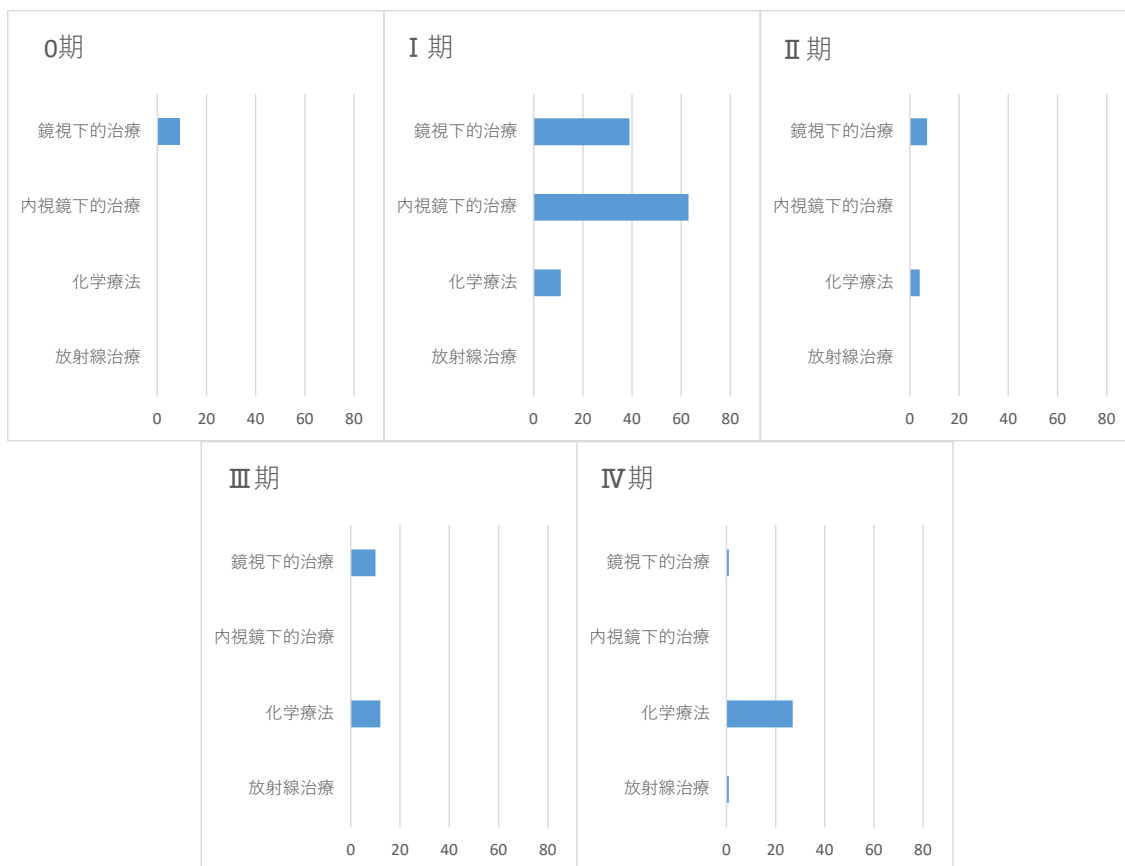
組織型



治療前ステージ別登録数

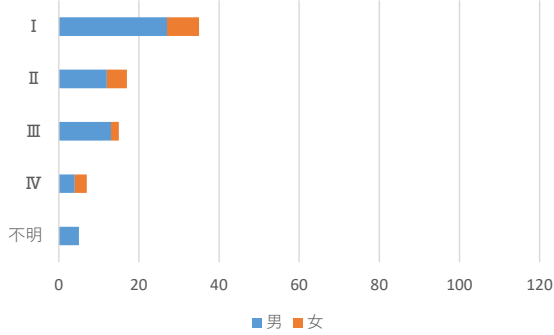
0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
9	72	19	32	78	13	223

ステージ別治療方法

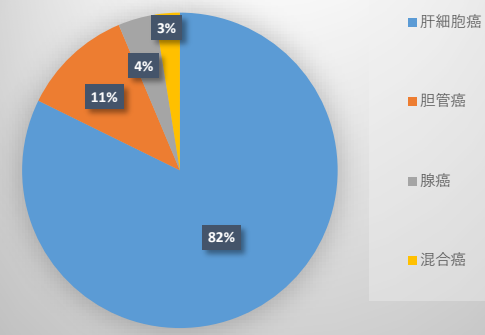


肺がんは、男性は147件、女性は76件であり、男性が女性の約2倍であり、総数223件であった。治療前ステージ別登録数では、I期とIV期が最も多かった。組織型では腺癌が全体の5割弱を占め、次いで扁平上皮癌、小細胞癌の症例があった。ステージ別治療方法は、0期では「鏡視下治療」I期は「内視鏡治療」「鏡視下治療」、II期では「手術」「化学療法」が半々となっている。IV期は「化学療法」が多くを占めていた。肺がんにおいては、「手術」と小細胞癌に有効な「化学療法」治療が多く実施されている。

ステージ別男女比



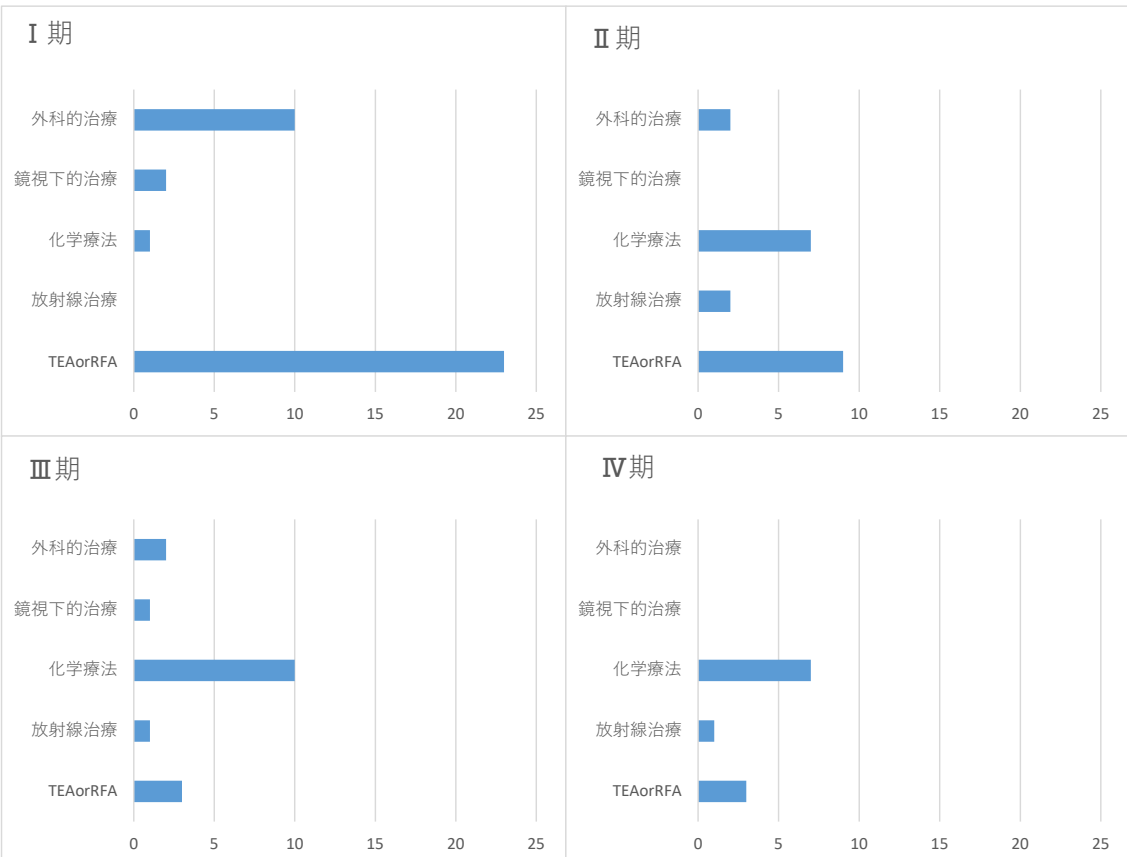
組織型



治療前ステージ別登録数

I 期	II 期	III 期	IV 期	不明	合計
35	17	15	7	5	0

ステージ別治療方法



肝がんは、男性は61件女性は18件で総数は79件、男性が女性の約3.4倍であった。
 組織型では、肝細胞癌が、全体の8割強占め、次いで胆管癌が多い。神経内分泌腫瘍も少数ではあるが症例があった。ステージ別ではI期が最も多かった。ステージ別治療方法は、I期では「手術」「TAEとRFA」が多く治療されていた。II期、III期は「化学療法」と「TAE・RFA」が多かった。IV期では、「化学療法」が大半であった。5大がんの中では、男女比では男性罹患数が多く、徳島県は肝細胞癌が死亡数がワースト1であった。